

| | | | | | | |
|------|---------------|---------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|
| 事業番号 | 09 03 02 | 事業改善シート（令和5年度実施事業分） | <input type="checkbox"/> 当初要求 | <input type="checkbox"/> 当初予算案 | <input type="checkbox"/> 補正予算案 | <input checked="" type="checkbox"/> 点検 |
| 事業名 | 環境にやさしい農業推進事業 | 部局 | 農政部 | 課・室 | 農業技術課 | |
| | | 実施期間 | H16～ | E-mail | nogi @ pref.nagano.lg.jp | |

1 現状と課題

・国は、農業分野における環境負荷を低減した持続可能な農業へ転換していく「みどりの食料システム法」を定め施策を展開し、県は第4期食と農業農村振興計画に基づき、環境にやさしい農業など持続可能な農業の展開を推進しているが、実践者と取組面積は横ばいの傾向である。加えて、食のグローバル化等を背景に、実需者からの生産者に対する国際基準GAP取得の要望が高まっているが国際基準GAPの取得生産者は少ない。また、気候変動により難防除害虫等が発生している。

・このため、持続可能な農業の面的拡大と国際GAPの取得が進むよう支援の必要がある。また、難防除害虫への的確な対策が必要がある。

2 事業目的

・本県農業が持続するように、農業分野における環境負荷低減の取組みが広がり、生産物の安全安心の確保と消費者理解が深まるよう取り組む。

・安定した農産物の生産ができるように、難防除害虫のまん延防止に取り組む。

3 事業目的を達成するための取組

① 有機農業等環境にやさしい農業の取組の推進

・環境にやさしい農業の価値を見える化するため、有機農業に係る新たな認証制度を検討するとともに、化学合成農薬・肥料を削減した栽培などに取り組む農業者のみどりの食料システム法に基づき認定する新たな制度等を推進

・有機農業に関心がある生産者、実需者、消費者、行政などで構成する有機農業プラットフォームの会員同士のつながりを創出するため、年間を通した検討会の場を設定

・有機農業の面的拡大を図るため、市町村等が地域ぐるみで取り組む有機農業産地づくり（オーガニックビレッジの創出）や有機農業プラットフォーム会員の独自活動等を支援

・地域の農業者が実施可能な環境にやさしい栽培体系等を組み立てるため、技術実証と検証を行う現地実証展示地区を設置

・令和4年度に採択された「四県サミット共同宣言※」に基づき、果樹せん定枝等、未利用有機質資材を活用した炭素貯留の取組を推進

※山梨県、静岡県、新潟県、長野県の知事によって、温室効果ガスの削減など農業分野における地球温暖化対策の推進を先導するため、令和4年9月14日に共同宣言が採択された

② GAPの推進

・農業者等の国際水準GAP（GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP）認証取得のためのコンサルタントの導入や認証審査を支援

・農業者等の認証取得や国際水準への取組のステップアップを支援するため、国際水準GAPに対応可能な職員を育成

③ 重要病害虫のまん延防止

・発生予察調査により侵入警戒を行うとともに、テンサイシストセンチュウの防除及びまん延防止を徹底

4 成果指標

(推移の凡例 ↗:改善 ↘:悪化 →:変化なし —:数値なし)

| No. | 指標名 | 単位 | R3年度 | | R4年度 | | R5年度 | | R5年度 目標値 | 達成 状況 | 目標値設定理由 |
|-----|---|----|-------|-------|------|-------|------|-------|-------------|---|---------|
| | | | 実績 | 実績 | 推移 | 実績 | 推移 | | | | |
| ① | 持続可能な農業に取り組む面積 (化学合成農薬・肥料を削減した栽培、有機農業) | ha | 2,465 | 2,414 | ↘ | 2,531 | ↗ | 2,877 | 未達成 | 第4期長野県食と農業・農村振興計画において、5年後に取組面積を令和3年度の1.5倍(3,700ha)を目指すことが長期目標であるため、初年度である令和5年度は2,877haを目標とする。 | |
| ② | 国際水準GAPの取組に関する研修会の参加者数 | 人 | 223 | 570 | ↗ | 616 | ↗ | 500 | 達成 | 国際水準GAPの周知と各農場での実践者増加、既存GAPからのステップアップにつなげるため、10地域で年2回研修会を開催、1回当たりの参加者数25名を目標とする。 | |

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

| No. | 施策分野(施策の総合的展開名) | 達成目標 (★印が付いているものは主要目標) | 単位 | 直近3か年の状況 | | | | | | 目標 | |
|------|-----------------|---------------------------|----|----------|----|---|----|---|----|----|----|
| | | | | 年 | 数値 | 年 | 数値 | 年 | 数値 | 年 | 数値 |
| 1-1① | 持続可能な脱炭素社会の創出 | | | | | | | | | | |
| 2-1① | 成長産業の創出・振興 | | | | | | | | | | |
| 2-2① | 循環経済への転換の挑戦 | | | | | | | | | | |

6 事業コスト

(単位:千円、人)

| 区分 | 予算額 | | | | | 決算額 | 職員数 |
|------|---------|---------|---------|--------------|--------|---------|------|
| | 前年度繰越 | 当初予算 | 補正予算等 | 合計 (予算現額) | うち一般財源 | | |
| R5年度 | 227,000 | 338,896 | △22,144 | 543,752 | 23,748 | 476,782 | 18.5 |
| R4年度 | 8,400 | 141,326 | 204,346 | 354,072 | 24,106 | 116,703 | 18.5 |
| R3年度 | 67,582 | 127,146 | 96,374 | 291,102 | 19,242 | 288,864 | 18.5 |

| | | | | | | |
|------|---------------|---------------------|-------|--------|--------|-------|
| 事業番号 | 09 03 02 | 事業改善シート（令和5年度実施事業分） | □当初要求 | □当初予算案 | □補正予算案 | ■点検 |
| 事業名 | 環境にやさしい農業推進事業 | | 部局 | 農政部 | 課・室 | 農業技術課 |

7 主な取組実績と成果

| |
|---|
| <p>①有機農業等環境にやさしい農業の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県有機農業推進プラットフォームの会員が中心となって取り組む、先進農家の視察による技術習得や有機農業で生産された農産物を使用した給食の試行等の活動を支援（18団体）するとともに、環境保全型農業直接支払交付金により有機農業に取り組む農業者を支援し、有機農業の取組面積が前年比103%に増加した。 ・市町村が主体となり取組む、生産・流通・消費まで一貫した有機農業産地づくりを支援（松川町、辰野町、飯田市、飯綱町）したほか、新たな産地づくりの促進に向けて市町村のノウハウを共有する研修会（産地見学会）を開催（1回・38名参加）し、新たに2市町で「オーガニックビレッジ宣言」が行われ、地域ぐるみでの有機農業の取組が開始された。 ・農業分野での脱炭素の推進に資する「炭素貯留」の手法を広めるため、果樹せん定枝を炭化させる専用機器を農業農村支援センターに配置し、当該機器を用いた実演会を各地で開催（14回）するとともに、生産者等への無償貸出しにより取組を推進したところ県の補助事業を活用し、1団体が4台の炭化専用機器を購入して取組を開始。 <p>②GAPの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者からの国際水準GAP認証への意識の高まりを受け、GAPの研修会を地域振興局で開催（27回・延べ624名参加）。 ・国際水準GAPの取得支援に係る「国際水準GAP取組水準向上支援事業補助金（県単）」により4件（いずれも個人）支援。 ・国際水準GAPの効果的な指導ができる指導員を育成するため、専門家による指導力向上研修を開催（1回・12名参加）。 ・生産者および消費者等のGAPの理解の向上に向け、GAPフォーラムを開催し、専門家からGAPの情勢の解説のほか、実需者からの講演等により理解の向上が図られた（1回・64名参加）。 <p>③重要病害虫のまん延防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンサイシストセンチュウまん延防止のため、のべ90.3haにおいて緊急防除を実施した。 ・火傷病まん延防止のため、144.6kgの中国産花粉を買取るとともに、初動防除用農薬の備蓄を行った。 |
|---|

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

| | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--------|---|--------|---|------|-----|
| 指標① | 持続可能な農業に取り組む面積（化学合成農薬・肥料を削減した栽培、有機農業） | R4年度推移 | ↘ | R5年度推移 | ↗ | 達成状況 | 未達成 |
| 環境保全型農業直接支払制度の事業説明会等での周知、化学肥料・化学合成農薬それぞれの慣行比5割低減の実践・普及に向けた実証ほの設置や有機農業推進プラットフォーム支援金による生産活動の支援を実施したことで、取組面積は前年比108%となり、新たに2村で環境保全型農業直接支払制度の取組が開始されるなどしたが、目標面積には届かなかった。 | | | | | | | |
| 指標② | 国際水準GAPの取組に関する研修会の参加者数 | R4年度推移 | ↗ | R5年度推移 | ↗ | 達成状況 | 達成 |
| 各地域振興局主催の各種研修会のほか、全県で開催したGAPフォーラムを開催するなど、積極的に研修会を開催したことにより、参加者数は前年比46人の増加となった。 | | | | | | | |

9 今後の事業の方向性

| |
|--|
| <p>(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい農業技術の地域への波及、更なる取組拡大に当たっては、農業資材等の価格高騰を受け、防除効果の検証だけでなく、技術導入による生産性や経済性等への影響がこれまで以上に重視される。 ・また、物価高騰により消費者の生活防衛意識が高まる中で、環境にやさしい農業で生産された農産物の販売先を拡大していくためには、生産にかかるコストや労力が評価された適正な価格で取引されるよう、消費者や実需者等のより一層の理解促進が必要。 |
| <p>(2) 事業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、農業者が実施可能な環境にやさしい農業技術の導入を進めるための現地実証を支援するとともに、生産性や経済性等を踏まえた成果等を情報発信し、技術の普及を図る。 ・また、「信州の環境にやさしい農産物認証」等の制度を見直し、農業者及び消費者等のニーズに対応することで、関係者の理解促進と取組拡大の加速化を図る。 |

| | | | | | |
|-----|----------------------|----|-----|-----|-------|
| 事業名 | 環境にやさしい農業推進事業 | 部局 | 農政部 | 課・室 | 農業技術課 |
|-----|----------------------|----|-----|-----|-------|

| 細事業 No. | 細事業名 | | R3年度 決算額 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 |
|----------|------------------------------|-----------|---|--------------|--------------|
| 1 | 環境にやさしい持続可能な農業定着・促進事業 | | 85,858 千円 | 30,913 千円 | 31,045 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | | |
| 1 | 有機農業推進事業 | 直接 補助金 | <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業に係る新たな認証制度の検討 ・市町村等が主体となった地域ぐるみでの有機農業産地づくりの推進 ・有機農業プラットフォームを核としたつながりの創出支援 ・国からの内示額の減及び実績に伴う交付金額の減 オーガニックビレッジの創出 4市町村 | | |
| 2 | 環境農業推進事業 | 直接 補助金 | <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの食料システム法に基づく農業者の認定及び「信州の環境にやさしい農産物認証」の認定推進 ・環境にやさしい農業技術実証展示地区の設置、現地検討会の開催 ・産地が地域ぐるみで取組む環境にやさしい栽培体系への転換に向けた実証・普及支援 環境にやさしい農業推進研修会の開催 1回、実証ほの設置 5か所 | | |
| 3 | 農業分野における脱炭素推進事業 | 直接 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会への参加及びJA等と連携したバイオ炭の施用方法の検討 情報交換会への参加 3回 | | |
| 4 | G A Pの推進 | 直接 補助金 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際水準GAPの認知度向上とステップアップに向けた研修会の開催 ・国際水準GAP認証取得支援 ・国際水準GAPに対応可能な職員を育成するための研修の受講 認証取得支援6件、職員の育成17人 | | |

| 細事業 No. | 細事業名 | | R3年度 決算額 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 |
|----------|----------------------|------|--|--------------|--------------|
| 2 | 環境保全型農業直接支払事業 | | 33,850 千円 | 34,822 千円 | 38,390 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | | |
| 1 | 環境保全型農業直接支払事業 | 交付金 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学肥料、化学合成農薬の使用を50%削減したうえで、地球温暖化防止、生物多様性保全の取組を行う農業者を支援 ・実績に伴う交付金額の減 実施市町村数43 支給対象者312人 交付額 37,681千円 | | |

| 細事業 No. | 細事業名 | | R3年度 決算額 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 |
|----------|----------------|------|--|--------------|---------------|
| 3 | 植物防疫事業 | | 167,843 千円 | 49,624 千円 | 239,471 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | | |
| 1 | 発生予察事業 | 直接 | <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除所等による病害虫発生予察ほ場の設置及び調査の実施 ・日本植物防疫協会が提供する農薬登録情報等の検索システムへの加入 予察巡回調査ほ場設置か所数 257地点、予察方法の発表回数 8回 | | |
| 2 | 病害虫防除所運営費 | 直接 | 病害虫防除所の設置及び運営 発生予察事業、侵入調査事業及び植物検疫指導の推進体制構築（11名） | | |
| 3 | 重要病害虫まん延防止対策事業 | 直接 | <ul style="list-style-type: none"> ・国が指定する重要病害虫（テンサイシストセンチュウ）の防除及びまん延防止対策の実施 ・薬剤抵抗性リンゴ黒星病防除対策プログラムの周知徹底 ・国が指定する病害虫（ミバエ等）の侵入警戒調査の実施 テンサイシストセンチュウ、リンゴ黒星病のまん延防止、火傷病等侵入調査事業 107地点 | | |

| 細事業 No. | 細事業名 | | R3年度 決算額 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 |
|------------|--------------|------|---|-------------|-------------|
| 4 | 農薬安全使用対策事業 | | 1,312 千円 | 1,345 千円 | 1,318 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | | |
| 1 | 農薬安全使用対策事業 | 直接 | <ul style="list-style-type: none"> ・農薬の適正使用の推進 ・地域特産作物等、マイナー品目の農薬登録拡大のための試験等の実施 ・環境モニタリング調査の実施 | | |
| | | | 地域特産作物の農薬登録適用拡大試験実施件数 5件 | | |

| 細事業 No. | 細事業名 | | R3年度 決算額 | R4年度 決算額 | R5年度 決算額 |
|------------|--------------|------|--|-------------|---------------|
| 5 | 肥料価格高騰緊急対策事業 | | - 千円 | 0 千円 | 166,558 千円 |
| No. | 細事業を構成する主な取組 | 実施方法 | 令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット） | | |
| 1 | 肥料価格高騰緊急対策事業 | 補助金 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学肥料の低減に取り組む農業者に対して肥料費高騰分の一部を助成 | | |
| | | | 補助件数 13,414件（106団体） | | |